

# 第5章 総括

## 第1節 新堂遺跡の遺構について

### （1）I区の竪穴建物について

今回の調査で、北側のI区で6棟の竪穴建物を検出した。6棟のうち5棟が隅丸方形で1棟が円形である。このうち全形を検出したのは竪穴建物3と竪穴建物5の2棟で、竪穴建物2と竪穴建物4は約4分の3、竪穴建物1と竪穴建物6は約2分の1を検出するにとどまった（図8参照）。

建物の規模は最小の竪穴建物1で1辺約3.0m四方の推定面積約9.0m<sup>2</sup>、最大の竪穴建物5で約1辺6.0m四方、推定面積約36.0m<sup>2</sup>である。竪穴建物1は規模が小さいため住居とは考えにくく他の用途を想定するが、それ以外の竪穴建物は住居と考えられる。いずれの建物も周堤や外周溝は確認できなかつたが、壁溝や主柱穴、炉等の内部施設を検出した。

竪穴建物はすべてY=-41,075より西に位置している。I-b区では調査区を拡張してY=-41,090より東までの範囲で3棟を検出したが、遺構の密集度や溝等が調査区外にも延長する状況からすると、I-c区の西側にさらに竪穴建物が広がっている可能性がある。

竪穴建物1・2・3は検出状況からは重複していないように見受けられる。ただし、実際には上屋があることを考えると、壁体外縁に1.5～2.0mの幅を設定しなければならない。併存する竪穴建物の周溝間距離については藤田憲司氏は通常20m程度、沖積低地で10m強を想定し、高田健一氏は最低でも4～6m必要とする。竪穴建物1・2・3の周溝間距離は5m程度できわめて近接するが、これが竪穴建物1・2・3の時期差、同時に存在しなかったことを示すかは明らかにできなかった。竪穴建物4と6、竪穴建物4と5は10～20mの距離があり、竪穴建物3と5は約40mの距離がある。

また、土坑S0756や土坑S0490で検出した、壁材とした土製品を含む土坑が竪穴建物に付随する何らかの施設とするなら、I-c区の南東部の土坑S0490の南にある円形にめぐる溝S0489も竪穴建物の壁溝と考え得る。つまり、壁溝S0489で囲まれた円形住居になる可能性もあり、居住域がI-b区の南東部よりさらに南にも広がっていた可能性もある。

竪穴建物の時期は内部構造がかまどでなく中心に炉をもつて、下限はおおむね古墳時代前期までと考えられる。上限は縄文時代に遡るが、弥生時代後期には多くの竪穴建物の平面形が円形から方形に移行するとされる。しかし、円形の竪穴建物6を住居内の遺構や覆土から出土した遺物の時期から、弥生時代中期に限定することはできなかった。ただし、周辺の包含層中からは弥生時代中期の土器や石器も一定量出土していることから、弥生時代中期からこの周辺に居住域が形成されたとも考えられる。すべての竪穴建物の炉や主柱穴、覆土から出土した遺物が弥生時代後期後半から後期末におさまることから、狭義には弥生時代後期後半の居住域と位置づけられよう。

北西に位置する竪穴建物2の周辺では、第1面上層からは古墳時代前期の遺構もみられることから、I区の中でも南から北へ行くに従い、弥生時代中期、弥生時代後期、古墳時代初めと小時期差をもち、継続あるいは断続しながら居住域が移動していたとも推測できる。

また、竪穴建物はY=-41,075より西に集中し近辺には井戸等もみられるが、弥生時代後期を中心とする井戸や溝、柱穴等の遺構はY=-41,055周辺まで広くみられることから、竪穴建物に伴う遺構

として居住域がここまで広がっていたと考える。

ともあれ、I区でこれまでの新堂遺跡の調査では確認されていなかった、弥生時代後期後半から後期末の居住域が確認されたことは、今回の大きな調査成果であろう。

## (2) II区の流路について

かわって南側のII区では、最も主要な遺構としてII-a・c・d区を蛇行しながら流れる流路S0034とそれに平行する溝S0030を検出した。流路S0034より北東では主に鋤溝等の耕作遺構が検出されるが、これは中世以降の遺構と考えられる。流路S0034の南西ではII-d区を中心として土坑や柱穴等が検出され（図44参照）、遺物は縄文時代晚期から古代のものが出土している。

流路S0034、溝S0030はともに地形条件上、高い南東から低い北西へと流れていると考えられる。

流路S0034は最大幅8.0m、推定される深さは下層の流路も含めて約2.0mの大規模な流路で、II-a区の東端から現れ、蛇行しながらII-d区の北西角へと流れる。II-a区の東、II-d区の西、調査区外へと続くが、調査区内での全長は直線距離でも80m以上に及ぶ。

幅が狭くなったり淀んだ箇所に土器や自然木が溜まった状態で検出された。弥生時代中期から古代までの遺物を含むが、上層と下層の遺物で明確に時期差はない。また、数十メートル離れた地点に散在する遺物が接合でき、急流でなく比較的緩やかな流れだったと想像される。

流路S0034の下層にも重複するように大規模な流路があったことが、平面精査や部分的な断面調査で判明した。下層の流路は南のII-a区では南北方向にのびるが東向きを変え、II-c区に入ると流路S0034と重なるように東から西へとのび、II-d区でもほぼ重複して北西角にむかっていく。最大幅は約12.0mで、深さは部分的なトレンチ調査から推測すると流路S0034とあわせてだが約2.0mである。また、流路S0034の上層には、3-2層上面からの溝が検出された。流路S0034の中心をとおるようII-a区東辺からII-d区北西角にむかって流れる。

溝S0030はこの溝より5~15m南に離れているが、平行するようにII-a区南東角からII-d区北西角にむかって流れる。3-2層上面からの遺構で、遺物量は少ないが古墳時代の須恵器杯等が出土した。流路S0034と溝S0030の間から古墳時代中期の土器が数点出土することから、二つの溝の時期の一端を古墳時代中期に求められよう。II区の中央では、多少流れの方向を変えながらも数世紀にわたって流路が形成され、氾濫を繰り返して周辺に影響を与えていたことが判明した。

II-b区の北端の突出部でも基盤層のさらに下層に流路の痕跡が認められ、弥生時代中期の土器がまとまって出土するのは、調査面より下層に存在する流路の氾濫によってもたらされたと考えられる。流路S0034より北東部では中世以前の遺構がほぼ認められず、中世以降も耕作地としての利用が主なのは、流路の氾濫を受けやすく土壤も砂礫が強いため、居住に適さない地域だったと考えられる。

自然科学分析でもII区は弥生時代中期からの植生が復原でき、古墳時代前期に土壤が安定する結果が得られており、考古学的結果と合致している。

流路S0034の南西部でもII-a区南側は近現代の池や井戸に攪乱され、遺構を検出したのはII-d区やII-a区のごく一部にとどまった。検出遺構は掘立柱建物1棟や建物状遺構、土坑、溝等で、遺物の時期も縄文時代晚期、弥生時代後期、古墳時代前期から後期、古代等多岐にわたる。居住域と呼ぶほどのまとまりはないが、長期間にわたって人が生活していたことが明らかになった。

また、II-d区の西壁内土坑S0959からは多量のサヌカイトの石器、剥片、チップが出土しており、II-d区のさらに西側にも遺構が広がっていたことが示唆される。

## 第2節 新堂遺跡の遺物について

今回の調査では調査面積約9,300m<sup>2</sup>の調査区から、コンテナ約70箱の遺物が出土した。特に北側のI区での出土量が多く、南側のII区との出土量比は3:1である。これはI区とII区では遺構の種類が異なるため、I区では竪穴建物をはじめとする居住域を検出したうえ遺構が密集しており、II区では出土遺物の多くは流路やその氾濫によるからであろう。

I区では竪穴建物、井戸、溝、土坑、落ち込み等から廃棄された遺物が出土し、あるいはその上層の包含層は、下層の生活面の遺物を集めて整地したような状態であったため、大量の破碎された遺物を含んでいた。遺物は完形品が少なく、摩耗して接合不可能なものが多かった。

対して、II区は出土遺物の多くは調査区の中央を流れる流路S0034とその氾濫による流路付近地表面からの出土であり、その他は遺構数も少なく耕作遺構を主とするため遺物量は少ない。

遺物の種類は土器が最も多く、出土量全体の4分の3を占める。次いで石器・石製品で主にサヌカイトの石器は剥片や石核、チップも含めると200点以上を数える。サヌカイトの打製石器以外にも石庖丁やすり石、ハンマーストーン、砥石等もみられる。

焼土塊や土師質で壁材と推測した土製品もコンテナ2箱程度みられた。焼土塊はほぼII区から出土し、壁材とした土製品はほぼI区から出土した。

古墳時代前期から後期の円筒埴輪も10点程度出土した。瓦はごく少量で平瓦の破片のみ、金属製品、木製品・骨等の有機遺物はほぼみられなかった。II区の流路中からは自然木や種実は出土しているのでこれらの有機遺物が腐朽したと考えにくく、当初から少なかったのである。

遺物の時期は、打製石器には旧石器時代の国府型ナイフ形石器や縄文時代の石鏃がみられる。また、縄文時代晩期の土器が少数だが、晩期の突帯文土器がI・II区ともにみられる。弥生時代前期の土器は未検出だが、I-b区で出土した扁平片刃石斧は、形態的には弥生時代前期末葉から中期前半にかけてのもので、他地域からの搬入の可能性が高い。弥生時代中期になると土器や石器がI区の包含層中やII区の北側突出部等で一定量みられるようになる。

弥生時代後期後半になると、土器の量は一気に増え、弥生時代後期末から古墳時代初頭までの土器がそれに次ぐ。遺構から出土する土器は須恵器を伴わないものがほとんどであるが、上層の包含層には古墳時代前期から中期の土器、II区の流路からは古墳時代中期から後期の須恵器、初期須恵器の大甕等もみられる。

飛鳥時代から奈良時代の須恵器や円面硯等も少量みられるが、それ以降は中世の土師器・黒色土器・瓦器椀等はごく少量で耕作遺構や包含層中にみられるにすぎない。

当遺跡の遺物の特徴として、その多様性、多時期性があげられよう。

縄文時代晩期の深鉢や旧石器は、近辺の遺跡でも少数確認されている。また、円筒埴輪も南側の立部古墳群跡等との関連も考えられるが、古墳時代前期、4世紀代にあたる古い型式もみられる。

土器は弥生時代後期後半から末としたが、当遺跡南には庄内式土器の標式遺跡である上田町遺跡があり、弥生時代後期から古墳時代に続く土器の系譜がたどれる。当遺跡でこれまで大規模な調査が行われていなかったが、今回の調査で南河内地域での弥生時代後期から古墳時代前期の土器についての資料が得られ、解明の一助となり得る。

また、主にII区で出土した焼土塊は南の岡遺跡や立部遺跡で古代遺構の鋳物師工房址が確認されてお

り、それらとの関連が考えられる。土製品でも壁材としたものについてはその特徴から自然木を芯とする壁材ではないかと推測したが、報告例がなくその用途については推測の域を出ない。今後、本書以外での報告を待ちたい。

特筆すべきは、I-b区で竪穴建物上層の自然遺構、たわみから出土した層灰岩製の扁平片刃石斧である。

層灰岩は北部九州地域脇野亞層群、対馬、下関亞層群等で産出されるとされる岩石で、北部九州では片刃石斧や石剣の材として多用されている。しかし、九州以外では層灰岩を材料とした石器はこれまでみられなかった。近年になって、島根県や鳥取県、石川県等の日本海沿海域で搬入されている事例が報告されており、日本海の海運を利用して本州に搬入されたと推測されている。

層灰岩製の石斧が日本海沿岸部でなく、近畿内陸部で確認されたものでは今回の例が初出である。ただし、形態的にみても転用、再利用された可能性は高いものの、扁平片刃石斧が使用されるのは弥生時代前期末から中期初めとされる。I区では時期的にこれに伴う土器が出土せず、この石斧が出土した地点からは古墳時代に入る土器が出土している。

他の遺物と時期的に大きく乖離していることから、どのように搬入されたか不明な点はあるものの、層灰岩製の扁平片刃石斧が出土したことは大きな調査成果である。

#### 〈参考文献〉

森屋美佐子・正岡大実編 2008 『八尾南遺跡』 (財) 大阪府文化財センター

岡本茂史 2007 「「集落跡」から見えるもの—八尾南遺跡の集落景観—」『財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館 2005年度共同研究成果報告書』 (財) 大阪府文化財センター

高田健一 2007 『山陰における弥生時代集落景観—妻木晩田遺跡における集落景観復元の基礎作業を通じて—』『財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館 2005年度共同研究成果報告書』 (財) 大阪府文化財センター

藤田憲司 1984 『単位集団の集団領域—集落研究の基礎として—』『考古学研究』第31卷第2号 考古学研究会

佐藤由紀男・宮田明 2018 「石川県小松市八日市地方遺跡出土の層灰岩製片刃石斧と三面石斧をめぐって」『考古学研究』第65卷第3号 考古学研究会

森貴教 2011 「北部九州—今山系石斧の流通を中心に—」『季刊考古学』第111号 雄山閣

森貴教 2013 「弥生時代北部九州における片刃石斧の生産・流通とその背景—「層灰岩」製片刃石斧を中心にして—」『古文化談叢』第69集 九州古文化研究会

表5 土器・土製品観察表

捕団番号	遺物番号	図版番号	種別	器形	時期	法量(cm) ( )は推定 ( )は残存	調整等 (砂→はヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す)	外面色調	調査面	調査区	報告書の 遺構番号・層
37	1		須恵器	杯身	古墳時代後期	口径 [11.4] 器高 (2.8)	外:回転ナデ、底部回転ヘラケズリ (砂←) 内:回転ナデ	N6/0 灰	第1面	I-a 区	S0007
37	2		須恵器	杯身	古墳時代後期	口径 [11.6] 器高 (3.5)	外:回転ナデ、底部回転ヘラケズリ (砂←) 内:回転ナデ	N6/0 灰		I-a 区	3層
37	3		灰釉陶器	椀	古代	底径 [7.4] 器高 (2.0)	外:施釉 糸切り、貼付け高台	5Y6/2 灰オリーブ		I-a 区	3層
37	4		弥生土器	甕	弥生時代後期末	底径 3.9 器高 (3.3)	外:タタキ 内:調整不明	7.5YR7/6 橙		I-a 区	3層
37	5	29	弥生土器	甕	弥生時代後期後半	口径 [30.6] 器高 (8.0)	内外:表面摩耗のため調整不明 外面黒斑あり	2.5Y8/2 灰白	第1面	I-b 区	S0155 井筒内上層
37	6		弥生土器	壺	弥生時代後期後半	底径 4.3 器高 (6.6)	外:調整不明、 わずかにハケの痕跡残る 内:ナデ、底部に工具痕あり	2.5Y6/2 灰黄	第1面	I-b 区	S0155
37	7	29	弥生土器	甕	弥生時代後期末	底径 (3.6) 器高 (6.7)	外:タタキ 内:ハケ	10YR4/1 褐灰	第1面	I-b 区	S0155
37	8	29	弥生土器	鉢	弥生時代後期後半	器高 (11.3)	内外:ナデ	2.5Y8/3 淡黄	第1面	I-b 区	S0155 最下層
37	9		弥生土器	有孔鉢か	弥生時代後期後半	底径 3.4 器高 (2.6)	内外:調整不明 底部穿孔、焼成前の穿孔	10YR7/6 明黄褐	第1面	I-b 区	S0160 埋土
37	10		弥生土器	甕	弥生時代後期後半	底径 4.0 器高 (3.5)	外:タタキ 内:調整不明	10YR7/4 にぶい 黄橙	第1面	I-b 区	S0160 埋土
37	11	29	弥生土器	甕	弥生時代後期後半	底径 5.4 器高 (2.2)	内外:調整不明	2.5Y7/2 灰黄	第1面	I-b 区	掘立柱建物 1 S0162
37	12		弥生土器	甕	弥生時代後期後半	底径 3.2 器高 (2.0)	内外:調整不明	7.5YR6/6 橙	第1面	I-b 区	S0250
37	13	29	弥生土器	甕	弥生時代後期後半	底径 5.4 器高 (2.3)	内外:調整不明	7.5YR7/6 橙	第1面	I-b 区	竪穴建物 2 S0294
37	14		弥生土器	甕	弥生時代後期後半	底径 3.6 器高 (2.6)	外:ナデ、底部指オサ工 内:ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	第1面	I-b 区	竪穴建物 2 S0294
37	15		弥生土器	甕	弥生時代後期後半	底径 3.6 器高 (2.6)	外:タタキ、底部ナデ 内:ナデか 摩耗、剥離のため調整不明瞭	5YR6/6 橙	第1面	I-b 区	竪穴建物 3 S0295
37	16		弥生土器	高杯	弥生時代後期後半	器高 (5.3)	内外:調整不明 円形スカシ 3方向、焼成前の穿孔	2.5YR7/6 橙	第1面	I-b 区	遺物集中部 (竪穴建物 3 S0295)
37	17	29	弥生土器	甕	弥生時代後期後半	口径 [13.6] 器高 (4.3)	内外:調整不明 外面体部わずかにタタキ残る	10YR7/3 にぶい 黄橙	第1面	I-b 区	竪穴建物 1 S0300 西突出部
37	18	29	弥生土器	壺	弥生時代後期後半	底径 4.0 器高 (5.5)	内外:調整不明 黒斑あり	5YR6/6 橙	第1面	I-b 区	竪穴建物 1 S0300 西突出部
37	19	29	弥生土器	甕	弥生時代後期後半	底径 [5.5] 器高 (4.4)	外:タタキ 内:調整不明	10YR7/2 にぶい 黄橙	第1面	I-b 区	竪穴建物 3 S0295
37	20		瓦器	椀	古代末 (11世紀末~12世紀初)	口径 [15.5] 底径 [5.8] 器高 (4.1)	外:ミガキ、底部ナデ 内:ミガキ	5Y7/1 灰白	第1面	I-b 区	S0362 (西側溝)
37	21		土師器	皿	古代末 (11世紀~12世紀初)	口径 [8.2] 器高 (1.2)	内外:ナデ、口縁部ヨコナデ	2.5Y8/2 灰白	第1面	I-b 区	S0362 (西側溝)
37	22	29	土師器	脚付皿	古代末 (12世紀)	底径 [8.6] 器高 (2.7)	内外:脚部ナデ	10YR8/3 浅黄橙	第1面	I-b 区	S0368
37	23	29	弥生土器	高杯	弥生時代後期	口径 [22.0] 器高 (5.1)	内外:調整不明 外面タテのヘラミガキか	7.5YR8/4 浅黄橙	第1面	I-b 区	S0369
37	24	27	弥生土器	小形壺	弥生時代後期	口径 [8.9] 底径 3.6 器高 (10.5)	外:ヨコハケ (不明瞭)、底部ナデ、 黒斑あり 内:ナデ、体部に工具痕あり	2.5YR6/6 橙	第1面	I-b 区	S0369
37	25	27	弥生土器	広口壺	弥生時代後期か 半	口径 [12.3] 器高 (13.8)	内外:調整不明	7.5YR8/4 浅黄橙	第1面	I-b 区	S0369
37	26		弥生土器	広口壺	弥生時代後期前半	口径 [23.8] 器高 (2.8)	内外:摩耗著しく調整不明 外面凹線文の上に円形浮文	7.5YR6/6 橙	第1面	I-b 区	S0370
37	27		弥生土器	甕	弥生時代後期	底径 4.8 器高 (3.5)	外:タタキ 内:調整不明	2.5Y7/2 灰黄	第1面	I-b 区	S0370
37	28		弥生土器	甕	弥生時代後期	底径 [5.3] 器高 (3.5)	外:タタキ 内:調整不明	10YR8/2 灰白	第1面	I-b 区	S0372
37	29	29	弥生土器	鉢	弥生時代後期	口径 [14.8] 器高 (5.5)	内外:調整不明	10YR7/4 にぶい 黄橙	第1面	I-b 区	S0371

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器形	時期	法量(cm) 〔 〕は推定 ( )は残存	調整等 (砂→はヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す)	外面色調	調査面	調査区	報告書の 遺構番号・層
37	30	29	弥生土器	広口壺	弥生時代中期	口径 [22.6] 器高 (6.0)	内外：剥離著しく調整不明	7.5YR7/6 橙	第1面	I-b 区	S0447 東半
37	31		弥生土器	壺	弥生時代後期	底径 6.1 器高 (3.5)	内外：調整不明	7.5YR8/4 浅黄橙	第1面	I-b 区	S0390
37	32	27	土師器	甕	古墳時代前期	口径 (14.0) 器高 (11.4)	外：調整不明、体部煤付着 内：口縁部調整不明、 体部へラケズリか (砂←)	2.5Y7/3 浅黄 ~ 5YR6/6 橙	第1面	I-b 区	S0455
37	33		弥生土器	高杯	弥生時代後期	底径 [8.6] 器高 (6.4)	内外：調整不明 円形スカシ3方向、焼成前の穿孔	5YR7/6 橙	第1面	I-b 区	S0455
37	34	27	弥生土器	壺	弥生時代後期末	底径 3.0 器高 (12.3)	内外：調整不明 外面黒斑あり	2.5Y8/3 淡黄	第1面	I-b 区	土器 S0409
37	35	27	土師器	二重口縁壺	古墳時代前期	口径 19.6 器高 35.9	内外：調整不明 外面上半タテハケ、下半ヘラミガキか 内面上半ヘラケズリか	7.5YR7/6 橙	第1面	I-b 区	土器 S0481
38	36	30	弥生土器	壺	弥生時代後期後半	底径 3.8 器高 (5.6)	外：体部剥離、底部ヘラミガキ、底面 ナデ 内：底部ナデ	2.5Y7/2 灰黄	第1面	I-c 区	S0489
38	37	30	弥生土器	甕	弥生時代後期後半	底径 4.1 器高 (4.8)	外：ナデか 剥離・摩耗のため調整不明瞭 内：ナデ	10YR7/2 にぶい 黄橙	第1面	I-c 区	S0495
38	38	30	弥生土器	甕	弥生時代後期後半	底径 3.6 器高 (6.7)	外：タタキ、底部ナデ、 指頭圧痕、黒斑あり 内：体部剥離、底部ナデ	7.5YR6/4 にぶい 橙	第1面	I-c 区	S0580
38	39	28	弥生土器	鉢	弥生時代後期	口径 [14.4] 底径 4.0 器高 7.0	内外：剥離・摩耗著しく調整不明 ハケのちナデか	5YR6/8 橙	第1面	I-c 区	S0584
38	40	30	弥生土器	ミニチュア土器	弥生時代後期後半	底径 3.1 器高 (6.6)	外：タタキのちナデか、底面ナデ 内：体部剥離、底部ナデ、 工具痕・黒斑あり	10YR7/3 にぶい 黄橙	第1面	I-c 区	S0585
38	41	27	弥生土器	甕	弥生時代後期後半	口径 [12.8] 底径 [3.8] 器高 24.5	内外：摩耗著しく調整不明 外面口縁部斜め方向のハケの痕跡 内面へラケズリか	7.5YR8/4 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0521
38	42	30	弥生土器	広口壺	弥生時代後期後半	口径 [22.0] 器高 (5.8)	内外：剥離・摩耗著しく調整不明 外面口縁部に竹管文	10YR8/4 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0591
38	43	28	弥生土器	高杯	弥生時代後期	底径 [14.5] 器高 10.1	内外：剥離・摩耗著しく調整不明 円形スカシ2方向残る、焼成前の穿孔 内面しづり痕あり	2.5Y8/2 灰白 ~ 5YR7/4 橙	第1面	I-c 区	S0600
38	44	30	弥生土器	甕	弥生時代後期後半	口径 [15.0] 器高 (9.3)	内外：剥離・摩耗著しく調整不明 黒斑あり	7.5YR7/4 にぶい 橙	第1面	I-c 区	S0611
38	45		弥生土器	甕	弥生時代後期後半	口径 [15.6] 器高 (10.7)	内外：剥離・摩耗著しく調整不明 外面タタキか	5YR7/6 橙	第1面	I-c 区	S0611
38	46		弥生土器	甕	弥生時代後期	底径 4.0 器高 (6.6)	内外：剥離・摩耗著しく調整不明	2.5YR6/6 橙	第1面	I-c 区	S0672
38	47		弥生土器	壺	弥生時代後期	底径 [3.8] 器高 (2.2)	外：ハケか、底部ナデ 内：剥離のため調整不明、工具痕あり	7.5YR4/3 褐	第1面	I-c 区	S0670
38	48		弥生土器	高杯	弥生時代後期	底径 [11.4] 器高 5.85	内外：剥離・摩耗著しく調整不明 内面しづり痕あり 円形スカシ4方向、焼成前の穿孔	10YR7/3 にぶい 黄橙~7.5YR7/4 にぶい橙	第1面	I-c 区	S0670
38	49	27	弥生土器	高杯	弥生時代後期	底径 [12.6] 器高 (7.3)	内外：剥離・摩耗著しく調整不明 円形スカシ3方向、焼成前の穿孔 内面しづり痕あり	10YR8/2 灰白	第1面	I-c 区	S0620
38	50	27	弥生土器	甕	弥生時代後期	口径 [14.9] 底径 4.1 器高 20.9	外：タタキ 内：調整不明	5YR6/6 橙	第1面	I-c 区	S0620
38	51	28	弥生土器	広口壺	弥生時代後期	口径 20.4 器高 (8.0)	内外：剥離・摩耗著しく調整不明 外面わずかに縦方向のヘラミガキ残る 内面口縁部黒斑あり	5YR8/4 淡橙	第1面	I-c 区	S0674
38	52	27	弥生土器	高杯	弥生時代後期末	口径 19.8 器高 (5.1)	外：ヘラミガキ、口縁部沈線3条 内：ヘラミガキ	10YR5/2 浅黄褐	第1面	I-c 区	S0674
38	53		弥生土器	直口壺	弥生時代後期	口径 [12.4] 器高 (5.3)	外：口縁上部ヨコナデ、下部タテハケ、 肩部ハケのちナデかヘラミガキ 内：口縁上部ヨコナデ、下部ヨコハケ	10YR5/2 灰黄褐	第1面	I-c 区	S0685
38	54	28	弥生土器	甕	弥生時代後期	口径 7.6 底径 3.5 器高 10.2	外：剥離・摩耗著しく調整不明、 頸部ハケ目残る 内：ナデ、口縁部ハケのちナデ	2.5Y8/2 灰白	第1面	I-c 区	S0638
38	55		弥生土器	小形壺	弥生時代後期	口径 [7.6] 器高 (4.15)	内外：剥離・摩耗著しく調整不明 内面黒斑あり	7.5YR8/4 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0638 南半
38	56		弥生土器	甕	弥生時代後期	底径 3.6 器高 (4.9)	外：タタキ、底部ナデ、煤付着 内：ハケか、底部工具痕あり	5YR7/6 橙~ 10YR8/3 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0638 南半
38	57		東播系須恵器	こね鉢	中世（12世紀末～13世紀初）	口径 [28.2] 器高 (5.8)	内外：回転ナデ	N4/0 灰・5Y6/1 灰	第1面	I-c 区	S0630
38	58		陶器	椀	中世後半～近世	底径 4.0 器高 (3.3)	外：施釉、底部・高台部露胎、 回転ナデ 内：施釉	10YR2/1 黒（釉） 7.5YR6/3 にぶい 褐（露胎）	第1面	I-c 区	S0639

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器形	時期	法量(cm) ( )は推定 ( )は残存	調整等 (砂→はヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す)	外面色調	調査面	調査区	報告書の 遺構番号・層
38	59		弥生土器	壺	弥生時代後期後半	底径 4.0 器高 (5.2)	外:タタキ、底部ナデ、黒斑あり 内:剥離・摩耗のため調整不明、 底部工具痕あり	10YR8/3 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0677
38	60	30	弥生土器	鉢	弥生時代後期後半	口径 [32.8] 器高 (12.1)	外:ハケ (のちヘラミガキか)、 口縁部ヨコナデ 内:体部ハケ残る、ハケのちナデか	5YR6/6 橙 ~ 2.5Y7/2 灰黄	第1面	I-c 区	S0677
38	61		弥生土器	壺	弥生時代後期後半	底径 3.4 器高 (6.4)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 外面ヘラミガキ残る、底部ナデか 内面底部近く横方向のナデか	10YR7/2 にぶい 黄橙	第1面	I-c 区	S0677
39	62	30	弥生土器	壺	弥生時代後期末	口径 [19.0] 器高 (11.5)	外:タタキ、口縁部ヨコナデ、煤付着 内:ハケ、口縁部ヨコナデ	5YR5/6 明赤褐 ~ 10YR7/2 にぶい 黄橙	第1面	I-c 区	S0721
39	63	30	弥生土器	広口壺	弥生時代後期後半	口径 16.0 器高 (4.0)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明	7.5YR7/6 橙	第1面	I-c 区	竪穴建物4 S0678
39	64	30	弥生土器	高杯	弥生時代後期後半	底径 [14.2] 器高 (8.3)	外:縦方向ヘラミガキ、 裾部ハケ目残る 内:ナデか、裾部ヨコナデ、 しづり痕あり 円形スカシ3方向、焼成前の穿孔	10YR7/3 にぶい 黄橙	第1面	I-c 区	S0680
39	65	30	弥生土器	壺	弥生時代後期後半	口径 [18.2] 器高 (10.0)	外:タタキ、口縁部ヨコナデ、 全体煤付着 内:肩部粗いハケ、口縁部ヨコナデ、 上半煤付着	10YR4/1 褐灰 ~ 10YR6/2 灰黄 褐	第1面	I-c 区	竪穴建物6内 S0701
39	66	30	弥生土器	壺	弥生時代後期後半	底径 3.7 器高 (6.0)	外:タタキ、底面ナデ 内:底部ハケ、煤付着、 体部剥離のため調整不明	10YR7/2 にぶい 黄橙	第1面	I-c 区	S0705
39	67		弥生土器	壺	弥生時代後期末	口径 [22.0] 器高 (5.6)	外:タタキ、黒斑あり 内:剥離・摩耗のため調整不明、 口縁部黒斑あり	10YR8/2 灰白	第1面	I-c 区	S0739
39	68	28	弥生土器	壺	弥生時代後期後半	口径 11.0 底径 3.8 器高 12.0	外:タタキ、口縁部ヨコナデ、 体部上半煤付着 内:口縁部ヨコナデ、煤付着	2.5YR5/6 明赤褐	第1面	I-c 区	S0739
39	69	28	弥生土器	壺	弥生時代後期後半	口径 11.1 底径 4.0 器高 9.9	内外:剥離・摩耗のため調整不明 口縁部ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙 ~ 7.5YR7/4 にぶい 橙	第1面	I-c 区	S0739
39	70		弥生土器	細頸壺	弥生時代後期後半	口径 9.4 器高 (12.1)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 外面タテのヘラミガキのちヨコナデか 内面ナデか	10YR8/4 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0739
39	71	28	弥生土器	広口壺	弥生時代後期後半	口径 12.6 器高 (13.1)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明	7.5YR7/4 にぶい 橙	第1面	I-c 区	S0739
39	72	28	弥生土器	壺	弥生時代後期後半	口径 [13.4] 器高 (19.2)	内外:摩耗のため調整不明	10YR7/4 にぶい 黄橙	第1面	I-c 区	S0739
39	73	28	弥生土器	鉢	弥生時代後期後半～後期末	口径 31.0 底径 4.1 器高 13.4	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 内面口縁部あたりにわざかにヨコハケ またはナデの痕跡が認められる	7.5YR8/3 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0739
39	74		弥生土器	高杯	弥生時代後期後半	底径 [14.5] 器高 (9.5)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 外面タテのヘラミガキか 内面裾部黒斑あり、しづり痕あり 円形スカシ3方向か、1方向残る、 焼成前の穿孔	10YR7/3 にぶい 黄橙	第1面	I-c 区	S0739
39	75	28	弥生土器	脚付鉢	弥生時代後期後半～後期末	口径 13.0 器高 (8.1)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 内面ハケのちヘラミガキか 円形スカシ1方向残る、焼成前の穿孔	7.5YR8/3 浅黄橙	第1面	I-c 区	竪穴建物5 S0740 北東区画
39	76	28	弥生土器	台付壺	弥生時代後期後半	口径 [11.6] 底径 4.7 器高 11.25	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 外面体部タタキか、脚部ナデか 内面ナデか	10YR7/3 にぶい 黄橙	第1面	I-c 区	竪穴建物5 S0740 南東区画
39	77		弥生土器	壺	弥生時代後期後半	底径 [15.6] 器高 (12.9)	外:頸部ヨコナデ、体部上半タタキ 内:体部下半板ナデ	10YR8/2 灰白 ~ 7.5YR6/3 にぶい 褐	第1面	I-c 区	竪穴建物5 S0740 北西区画
39	78	28	弥生土器	壺	弥生時代後期後半	口径 [14.8] 底径 3.8 器高 16.5	外:タタキ、黒斑あり 内:調整不明	2.5YR6/4 にぶい 橙	第1面	I-c 区	竪穴建物5内 S0821
39	79	38	土製品	壁材か		長さ 12.6 幅 10.7 厚み 8.0	全体ナデによる成形	10YR8/3 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0756
39	80	38	土製品	壁材か		長さ 12.6 幅 10.7 厚み 8.1	全体ナデによる成形	10YR8/3 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0756
40	81		須恵器	杯蓋	古墳～古代	器高 (1.6)	外:回転ナデ 内:ナデ、回転ナデ	N8/0 灰白		I-b 区	2・3層 (機械掘削)
40	82		須恵器	杯身	古墳時代後期	口径 [12.7] 器高 (2.1)	外:回転ナデ、底体部回転ヘラケズリ、 (砂←) 内:回転ナデ	N4/0 灰		I-b 区	3-2層
40	83		瓦器	椀	中世(13世紀)	口径 [16.2] 器高 (3.9)	外:ナデ、口縁部ヨコナデ 内:ヘラミガキ、口縁部ヨコナデ	2.5Y7/3 浅黄		I-b 区	3-2・3層

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器形	時期	法量(cm) 〔 〕は推定 ( )は残存	調整等 (砂→はヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す)	外面色調	調査面	調査区	報告書の 遺構番号・層
40	84		瓦質土器	甕	中世後半 (15世紀後半)	口径 [22.6] 器高 (5.4)	外:タタキ、口縁部ヨコナデ 内:ハケ、口縁部ヨコナデ	5Y4/1 灰		I-b 区	3-2層
40	85		黒色土器 B類	椀	古代末 (11世紀)	底径 [6.8] 器高 (1.4)	外:ヨコナデ 内:ヘラミガキ	5G2/1 緑黒		I-b 区	3層 (機械掘削)
40	86		弥生土器	甕	弥生時代後期	底径 [7.9] 器高 (2.3)	外:タタキの痕跡あり、後に粘土を 足す 内:調整不明	10YR6/6 明黄褐		I-b 区	3-2層
40	87		弥生土器	甕	弥生時代後期	底径 3.4 器高 (4.6)	外:タタキ 内:調整不明	10YR7/6 明黄褐		I-b 区	3-2層 (機械掘削)
40	88		弥生土器	壺	弥生時代後期	底径 3.8 器高 (3.1)	内外:摩耗のため調整不明	5YR6/8 橙		I-b 区	3-2層
40	89		弥生土器	甕	弥生時代後期	底径 [4.6] 器高 (4.9)	外:タタキ 内:底部工具痕あり	7.5YR7/6 橙		I-b 区	3-3層
40	90	37	埴輪	円筒埴輪	古墳時代中期	器高 (6.5)	内外:調整不明 外面貼付突帯	7.5YR7/6 橙		I-b 区	3-3層
40	91		弥生土器	甕	弥生時代後期末	口径 [13.4] 器高 (10.0)	外:タタキ 内:調整不明、ナデか	10YR8/3 浅黄橙		I-b 区	3-3層
40	92		弥生土器	壺	弥生時代後期	底径 4.6 器高 (3.3)	内外:剥離のため調整不明	2.5Y8/2 灰白		I-b 区	3-2・3層
40	93		須恵器	杯蓋	古墳時代後期	口径 [13.7] 器高 (3.6)	外:回転ヘラケズリ(砂→)、 口縁部回転ナデ 内:回転ナデ	N6/0 灰		I-c 区	3-3、 3-4層 (南側溝)
40	94		須恵器	杯身	飛鳥時代	口径 [9.2] 器高 (2.8)	外:底底部下半回転ヘラケズリ(砂 ↔)、回転ナデ 内:回転ナデ	N7/0 灰白		I-c 区	3-3層
40	95		須恵器	杯	飛鳥時代	底径 [11.5] 器高 (2.5)	内外:回転ナデ	N7/0 灰白		I-c 区	3-3層
40	96		弥生土器	脚付甕 or 鉢	弥生時代後期	底径 4.4 器高 (3.1)	外:脚部指ナデ 内:ハケ	2.5Y6/2 灰黄		I-c 区	3-3層
40	97		弥生土器	甕	弥生時代後期	底径 3.8 器高 (5.3)	外:タタキ 内:調整不明	10YR8/2 灰白		I-c 区	3-3・4層 青色シルト混 層
40	98		弥生土器	壺	弥生時代後期	底径 4.8 器高 (3.4)	内外:剥離のため調整不明 外面ハケのちナデ、内面ナデか	2.5Y7/6 明黄褐		I-c 区	3-3層
40	99		弥生土器	壺	弥生時代後期	器高 (5.6)	内外:剥離のため調整不明 外面頸部刻目突帯	7.5YR6/4 にぶい 橙		I-c 区	3-3層
40	100		陶器 (唐津)	椀	近世	口径 [11.2] 器高 (4.8)	内外:施釉、貫入あり	7.5Y6/2 灰オリ 一ブ		I-c 区	南西隅攪乱
40	101		陶器 (唐津)	椀	近世 (17世紀前半)	底径 4.9 器高 (3.6)	内外:施釉 高台端部離れ砂付着 底径の割にたちあがりがきつく、口径 小さくなる	7.5Y6/1 灰		I-c 区	攪乱
40	102	32	縄文土器	深鉢	縄文時代晩期	器高 (7.1)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 外面口縁部貼付突帯のち刻目	10YR5/3 にぶい 黄褐		I-c 区	3-3・ 3-4層
40	103	32	縄文土器	深鉢	縄文時代晩期	器高 (6.6)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 外面体部に貼付突帯のち刻目	10YR5/4 にぶい 黄褐		I-c 区	3-3・ 3-4層
40	104	38	土製品	移動式 かまど		器高 (9.2)	内外:調整不明	5YR6/8 橙		I-c 区	3-3層
64	120	31	須恵器	杯身	古墳時代後期	口径 [13.4] 器高 (5.05)	外:回転ナデ、底体部回転ヘラケズリ 内:回転ナデ	N8/0 灰白	第1面	II-c 区	S0034 上層
64	121	31	須恵器	杯蓋	古墳時代後期	口径 16.2 器高 6.1	外:天井部回転ヘラケズリ、 口縁部回転ナデ 内:回転ナデ	10Y8/1 灰白 N7/0 灰白	第1面	II-c 区	S0034 上層
64	122	32	須恵器	杯蓋	古墳時代後期	口径 [15.1] 器高 5.5	外:天井部回転ヘラケズリ、 上半未調整、口縁部回転ナデ 内:ナデ	N6/0 灰	第1面	II-d 区	S0034
64	123	31	須恵器	杯身	古墳時代後期	口径 9.2 器高 3.3	外:口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケ ズリ、粘土のかたまり多数残る(他 個体との重ね痕か) 内:ナデ	10Y6/1 灰	第1面	II-c 区	S0034 上層
64	124	33	弥生土器	鉢		口径 [13.2] 器高 (4.5)	内外:摩耗のため調整不明	7.5YR8/6 浅黄橙	第1面	II-a 区	S0034 下層
64	125	31	須恵器	甕	古墳時代中期	口径 (43.2) 器高 (15.3)	外:口縁部回転ナデ、頸部ナデ 内:口縁部上半回転ナデ、 下半ヘラケズリのちナデ	N5/0 灰	第1面	II-c 区	S0034 上層
64	126		弥生土器	壺	弥生時代中期後 半	口径 [23.6] 器高 (4.8)	内外:摩耗のため調整不明 外面口縁部端面凹線文、円形浮文 内外面口縁部櫛描列点文	10YR8/3 浅黄橙	第1面	II-d 区	S0034
64	127		弥生土器	壺	弥生時代後期	口径 [17.2] 器高 (2.2)	内外:調整不明 外面口縁部端面円形浮文	7.5YR6/6 橙	第1面	II-d 区	S0034

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器形	時期	法量(cm) 〔 〕は推定 ( )は残存	調整等 (砂→はヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す)	外面色調	調査面	調査区	報告書の 遺構番号・層
64	128	31	弥生土器	壺	弥生時代後期末	口径〔31.0〕 器高 (5.2)	内外:調整不明 外面:口縁部端面刺突文の上に円形浮文、口縁部下方に円形浮文	7.5YR6/6 橙	第1面	II-c 区	S0034 中層 灰色砂層
64	129	31	弥生土器	壺	弥生時代後期	口径〔7.5〕 器高 8.2	内外:摩耗のため調整不明	5YR7/8 橙	第1面	II-c 区	S0034 上層 砂層
64	130	31	弥生土器	壺		口径〔11.6〕 器高 (7.8)	内外:調整不明	2.5Y8/3 淡黄	第1面	II-c 区	S0034
64	131	31	弥生土器	長頸壺	弥生時代中期初め	口径 8.1 器高 (11.6)	外:口縁部櫛描直線文、一部波状文 残る、頸部上半ヘラミガキ、下半 総方向ミガキの痕跡わずかに残る 内:調整不明	10YR7/4 にぶい 黄橙	第1面	II-c 区	S0034 上層 砂層
64	132	33	土師器	二重口縁壺	古墳時代前期	口径〔19.0〕 器高 (5.8)	外:口縁部上半ハケ、下半ヨコナデ 内:ヨコナデ	7.5YR7/6 橙	第1面	II-a 区	S0034 下層
64	133		土師器	二重口縁壺	古墳時代前期	口径〔17.4〕 器高 (4.9)	内外:調整不明	10YR7/4 にぶい 黄橙	第1面	II-c 区	S0034 上層 砂層
64	134		弥生土器	壺	弥生時代後期	底径 3.4 器高 (4.4)	外:板状工具によるナデ 内:底部工具痕あり	2.5Y7/3 浅黄	第1面	II-a 区	S0034 下層
64	135		弥生土器	甕	弥生時代後期	底径 4.0 器高 (3.3)	外:タタキ 内:赤色顔料?付着、底部工具痕あり	2.5Y7/2 灰黄	第1面	II-c 区	S0034 上層 砂層
64	136		弥生土器	甕	弥生時代後期	底径 5.9 器高 (5.9)	外:タタキ 内:ハケ	10YR7/3 にぶい 黄橙	第1面	II-c 区	S0034 下層
64	137	31	弥生土器	甕	弥生時代後期後半	口径〔12.8〕 底径 3.7 器高 21.9	外:タタキ、口縁部ヨコナデ 内:ナデ、口縁部ヨコナデ	7.5YR7/8 黄橙	第1面	II-c 区	S0034 上層
64	138		弥生土器	高杯	弥生時代後期	口径〔19.5〕 器高 (4.0)	内外:摩耗のため調整不明	2.5Y8/3 浅黄	第1面	II-d 区	S0034
64	139	33	弥生土器	高杯	弥生時代後期	口径 15.6 器高 (5.1)	内外:摩耗のため調整不明	5YR6/8 橙	3層 (東側溝)	II-a 区	S0034
64	140		弥生土器	高杯	弥生時代後期	底径 9.3 器高 (5.9)	内外:摩耗のため調整不明 内面工具痕あり 円形スカシ3方向、焼成前の穿孔	2.5Y7/3 浅黄	第1面	II-c 区	S0034 上層 砂層
64	141	31	土師器	高杯	古墳時代前期	底径 8.8 器高 (6.9)	内外:摩耗のため調整不明 円形スカシ3方向、焼成前の穿孔	10YR7/4 にぶい 黄橙	第1面	II-c 区	S0034 下層
64	142		弥生土器	広口壺	弥生時代後期	器高 (7.4)	内外:摩耗のため調整不明 外面わずかにヘラミガキの痕跡認められる	10YR7/4 にぶい 黄橙	第1面	II-a 区	S0034 下層
64	143	37	埴輪	円筒埴輪	古墳時代中期	器高 (5.3)	外:ナデ、貼付突帶 内:剥離著しく調整不明	2.5Y6/2 灰黄	第1面	II-c 区	S0034 下層 (赤色礫層上面)
64	144	33	弥生土器	甕	弥生時代後期	口径〔11.8〕 器高 (8.0)	外:タタキ 内:調整不明	2.5Y7/3 浅黄	第1面	II-a 区	S0034 下層
64	145		弥生土器	甕	弥生時代後期	口径〔14.6〕 器高 (8.6)	外:タタキ 内:調整不明	2.5Y7/3 浅黄	第1面	II-a 区	S0034 下層 (赤褐色粗砂層)
64	146	33	弥生土器	甕	弥生時代後期	口径〔17.6〕 器高 (7.2)	内外:摩耗のため調整不明 外面タタキの痕跡あり	7.5YR8/6 浅黄橙	第1面	II-a 区	S0034 下層 (赤褐色粗砂層)
64	147		弥生土器	甕	弥生時代後期	口径〔18.1〕 器高 (9.4)	外:タタキ 内:板状工具によるナデ、 肩部指才サエ	10YR7/4 にぶい 黄橙	第1面	II-c 区	S0034 上層 砂層
64	148	31	弥生土器	甕	弥生時代中期	口径〔31.8〕 器高 11.2	外:ハケ、口縁部ヨコナデ 内:ナデ、口縁部ヨコナデ	10YR7/4 にぶい 黄橙	第1面	II-c 区	S0034 下層
65	149		須恵器	杯蓋	奈良時代	口径〔14.2〕 器高 (2.3)	外:回転ナデ 内:回転ナデ	N7/0 灰白		II-a 区	2層 (機械掘削)
65	150		須恵器	杯蓋	古墳時代後期	口径〔13.4〕 器高 (3.2)	外:回転ナデ、天井部ナデ 内:回転ナデ、天井部ナデ	N5/0 灰		II-a 区	2層 (機械掘削)
65	151		瓦器	椀	中世(13世紀後半)	口径〔14.4〕 器高 (3.1)	内外:摩耗のため調整不明 内外面にヘラミガキの痕跡認められる	7.5Y2/1 黒		II-a 区	2層 (第1面精査)
65	152		須恵器	杯蓋	奈良時代前半	器高 (1.4)	外:回転ヘラケズリ、 ツマミ部回転ナデ、天井部ナデ 内:一部表面剥離	N7/0 灰白		II-a 区	3層
65	153		須恵器	壺	奈良時代後半	口径〔10.0〕 器高 (4.2)	外:回転ナデ 内:回転ナデ	7.5Y7/1 灰白		II-a 区	3層
65	154		須恵器	杯	奈良時代後半	底径〔10.0〕 器高 (3.5)	外:回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内:回転ナデ、底部ナデ	N7/0 灰白		II-a 区	3層
65	155		須恵器	壺	奈良時代後半	底径〔10.0〕 器高 (3.6)	外:回転ナデ、底部ナデ、 高台回転ナデ 内:回転ナデ、底部ナデ	N7/0 灰白		II-a 区	3層
65	156		須恵器	皿	奈良時代	底径〔16.4〕 器高 (2.2)	外:回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内:ナデ	N6/0 灰		II-a 区	3層

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器形	時期	法量(cm) ( )は推定 ( )は残存	調整等 (砂→はヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す)	外面色調	調査面	調査区	報告書の 遺構番号・層
65	157	33	須恵器	円筒埴輪	奈良時代	口径 (11.5) 器高 (3.1)	内外:調整不明 長方形スカシ 8方向か	N5/0 灰		II-a 区	3層
65	158	37	埴輪	円筒埴輪	古墳時代中期	器高 (4.2)	外:ナデ、貼付突帯 内:ナデ	7.5YR6/6 橙		II-a 区	2層 (第1面精査)
65	159	37	埴輪	円筒埴輪	古墳時代後期	器高 (4.5)	外:ハケ、貼付突帯 内:ナデ	2.5Y7/6 明黄褐		II-a 区	3層
65	160	37	埴輪	円筒埴輪	古墳時代中期	器高 (6.0)	外:ナデ、貼付突帯 内:ナデ	7.5YR6/6 橙		II-a 区	3層
66	161		弥生土器	甕	弥生時代後期	口径 (35.4) 器高 (9.2)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明	10YR8/4 浅黄橙	第2面	II-b 区	土器群 A
66	162	33	弥生土器	鉢	弥生時代後期	口径 18.0 底径 3.9 器高 9.0	外:体部上部縦方向ヘラミガキ、 下部横方向ヘラミガキ、底部ナデ 内:ハケ or 板ナデ 口縁部ヨコナデ or ハケ	2.5Y8/2 灰白～ 10YR5/2 灰黄褐	第2面	II-b 区	土器群 A
66	163		弥生土器	高杯	弥生時代後期	口径 (28.4) 器高 (2.2)	内外:摩耗のため調整不明	10YR8/3 浅黄橙	第2面	II-b 区	土器 B
66	164	33	弥生土器	壺	弥生時代後期前半	底径 5.3 器高 (11.3)	内外:摩耗のため調整不明 内面ヨコナデらしい痕跡残る 体部一部黒斑あり	10YR8/2 灰白	第2面	II-b 区	土器 B
66	165		弥生土器	甕	弥生時代中期初め	口径 (29.8) 器高 (16.4)	内外:剥離・摩耗のため調整不明 口縁部ヨコナデ 外面ヘラミガキ 内面ナデか	10YR7/2 にぶい 黄橙	第2面	II-b 区	土器群 C 上層
66	166		弥生土器	甕	弥生時代中期初め	口径 22.2 器高 (14.5)	内外:ナデ、口縁部ヨコナデ	10YR6/2 灰黄褐	第2面	II-b 区	土器群 C
66	167		弥生土器	甕	弥生時代中期初め	底径 7.2 器高 (5.5)	内外:剥離・摩耗のため調整不明 外面ナデ or ヘラミガキ、底部ナデか、 一部黒斑あり 内面ナデか、底部工具痕あり	10YR7/2 にぶい 黄橙	第2面	II-b 区	土器群 C
66	168		弥生土器	甕	弥生時代中期初め	底径 7.1 器高 (6.0)	内外:剥離・摩耗のため調整不明 外面ヘラミガキ、底部ナデか 内面底部工具痕あり	10YR6/2 灰黄褐	第2面	II-b 区	土器群 C 上層
66	169		弥生土器	甕	弥生時代中期初め	底径 6.8 器高 (5.4)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 内面ナデか	10YR7/3 にぶい 黄橙	第2面	II-b 区	土器群 C
66	170		弥生土器	甕	弥生時代中期初め	底径 7.5 器高 (3.35)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 内外面ナデか	10YR6/3 にぶい 黄橙	第2面	II-b 区	土器群 C
66	171	33	弥生土器	甕	弥生時代中期初め	口径 23.0 底径 7.2 器高 31.8	外:ヘラミガキ、底部ナデ or 粗いヘ ラミガキか、口縁部ヨコナデ 内:ナデ、口縁部ヨコナデ	5YR6/6 橙～ 10YR6/2 灰黄褐	第2面	II-b 区	土器群 C 下層
66	172	33	土師器	高杯	古墳時代前期	口径 18.4 器高 (12.0)	内外:摩耗のため調整不明	7.5YR8/6 浅黄橙	第1面	II-c 区	土器 S0135
66	173		土師器	甕	古墳時代前期	頸部径 (18.4) 器高 (13.2)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明	10YR7/3 にぶい 黄橙	第1面	II-c 区	土器 S0150
67	174		須恵器	杯身	古墳時代後期	口径 (13.0) 器高 3.8	外:底体部回転ヘラケズリ (砂←)、 口縁部ヨコナデ 内:底部ナデ、口縁部ヨコナデ	N7/0 灰白	第1面	II-d 区	S0030
67	175	32	須恵器	杯	奈良時代前半	口径 (16.0) 底径 (9.2) 器高 6.3	外:回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内:回転ナデ	N6/0 灰	第1面	II-d 区	S0023
67	176	32	弥生土器	甕	弥生時代後期末	口径 (17.8) 器高 (7.5)	外:タタキ 内:調整不明	10YR8/2 灰白	第1面	II-d 区	S0951
67	177	32	弥生土器	有段高杯	弥生時代後期末	口径 22.3 器高 (6.1)	内外:調整不明	2.5Y8/2 灰白	第1面	II-d 区	S0928
67	178	32	土師器	高杯	飛鳥時代	口径 17.2 器高 (4.6)	内外:摩耗のため調整不明、 口縁部ヨコナデ 内面杯底部放射状暗文 黒斑あり	7.5YR7/6 橙	第1面	II-d 区	S0909
67	179		弥生土器	甕	弥生時代中期後半	口径 (14.8) 器高 (7.0)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 口縁部ヨコナデ 外面ヘラミガキ or ナデ、 内面ナデか、内面全体に煤付着	10YR5/3 にぶい 黄褐	第1面	II-d 区	S0959 西壁内
67	180		弥生土器	高杯	弥生時代後期末	器高 (6.2)	内外:摩耗のため調整不明 外面タテハケか	10R5/6 赤	第1面	II-d 区	S0958
67	181	32	縄文土器	深鉢	縄文時代晚期	器高 (14.6)	内外:調整不明 外面上部刻目突帯	10YR5/6 黄褐	第1面	II-d 区	S0926
67	182	32	縄文土器	深鉢	縄文時代晚期	器高 (6.0)	外:ヘラミガキ、口縁部刻目突帯 内:調整不明	10YR4/3 にぶい 黄褐	第1面	II-d 区	S0926

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器形	時期	法量(cm) ( )は推定 ( )は残存	調整等 (砂→はヘラケズリにより 砂が動いた方向を示す)	外面色調	調査面	調査区	報告書の 遺構番号・層
67	183	32	縄文土器	深鉢	縄文時代晚期	器高 (7.6)	外:ヘラミガキ、口縁部刻目突帯、 工具痕あり 内:調整不明	10YR4/3 にぶい 黄褐	第1面	II-d 区	S0926
67	184	32	縄文土器	深鉢	縄文時代晚期	器高 (3.5)	外:ヘラミガキ、口縁部刻目突帯 内:調整不明	10YR5/3 にぶい 黄褐		II-d 区	3-3層
67	185	32	縄文土器	深鉢	縄文時代晚期	器高 (4.0)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 外面口縁部刻目突帯	7.5YR5/4 にぶい 褐		II-d 区	3-3層
67	186		縄文土器	深鉢	縄文時代晚期	底径 [5.4] 器高 (3.4)	内外:剥離・摩耗著しく調整不明 かなりゆがみあり	5YR5/4 にぶい赤 褐		II-d 区	3-3層
67	187	38	埴輪	円筒埴輪	古墳時代前期	底径 [27.0] 器高 (2.7)	内外:調整不明 外面貼付突帯、黒斑あり	7.5YR6/6 橙	第1面	II-d 区	S0901
67	188	37	埴輪	円筒埴輪	古墳時代前期か	器高 (6.0)	内外:摩耗のため調整不明 外面ハケか、貼付突帯	2.5Y7/2 灰黄		II-d 区	3-3層
67	189		弥生土器	鉢	弥生時代中期末	器高 (5.0)	内外:摩耗のため調整不明 外面口縁部刺突文あり	7.5YR7/8 黄橙		II-d 区	3-3層
67	190		弥生土器	甕	弥生時代中期	口径 [18.0] 器高 (5.1)	外:口縁部ヨコナデ、指オサエ 内:口縁部ヨコナデ、体部ナデ	10YR4/2 灰黄褐		II-d 区	3-3層
	200	33	赤色顔料容器	壺	弥生時代後期		内外:調整不明		第2面	II-b 区	土器群A
	201	32	縄文土器	深鉢	縄文時代晚期	左器高 (5.1) 右器高 (4.3)	内外:調整不明		第1面	II-d 区	S0926・ S0927
	202	38	土製品	焼土塊		長さ 7.0 幅 5.5	外:白色砂礫付着	10YR4/1 褐灰		I-a 区	3層
	203	38	土製品	焼土塊		上:長さ 3.0 幅 1.0 左:長さ 4.3 幅 2.8 右:長さ 4.0 幅 3.2		10YR4/1 褐灰		II-b 区	機械掘削 (3-1層)
	204	38	土製品	焼土塊		左:長さ 5.5 幅 4.0 右:長さ 3.2 幅 2.5	外:白色砂礫付着	10YR4/1 褐灰		II-b 区	第1面精査 (4層上面)
	205	38	土製品	焼土塊		長さ 4.0 幅 2.8		10YR4/1 褐灰		II-b 区	機械掘削 (3-1層)
	206	38	土製品	焼土塊		長さ 7.0 幅 3.9	外:工具状痕跡、赤色砂礫付着	7.5YR7/1 明褐灰		I-a 区	3層
	207	38	土製品	焼土塊		長さ 9.0 幅 1.9	外:直径5ミリ程度の気泡多い	7.5YR4/2 灰褐		II-b 区	3-1層
	208	38	土製品	焼土塊		長さ 5.2 幅 4.2		7.5YR6/2 灰褐		II-b 区	北側溝
	209	38	土製品	壁材か		長さ 8.8 幅 4.8 厚み 1.0	全体ナデによる成形、凹凸面が5ヶ所、 直径5~10ミリの穿孔が5ヶ所あり	10YR8/3 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0756
	210	38	土製品	壁材か		左:長さ 11.2 幅 8.5 厚み 5.0 右:長さ 9.3 幅 6.5 厚み 5.1	全体ナデによる成形	10YR8/3 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0490
	211	38	土製品	壁材か		長さ 24.5 幅 6.5 厚み 7.1	全体ナデによる成形	10YR8/3 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0756
	212	38	土製品	壁材か		長さ 19.3 幅 10.5 厚み 10.0	全体ナデによる成形、直径10ミリと 15ミリの穿孔あり	10YR8/3 浅黄橙	第1面	I-c 区	S0756
	225	37	埴輪	円筒埴輪	古墳時代中期	長さ 4.7 幅 7.0		7.5YR7/4 にぶい 橙		I-c 区	南東隅攪乱
	226	32	縄文土器	深鉢	縄文時代晚期	長さ 18.5 幅 6.1		10YR4/3 にぶい 黄褐	第1面	II-d 区	S0926

表6 石器・石製品観察表

挿図番号	遺物番号	図版番号	器種	時期	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	石材	調査面	調査区	報告書の遺構番号・層	備考
41	105	34	石鎌	弥生時代中期	2.7	1.4	0.6	1.7	サヌカイト		I-b区 拡張部	3-2層 (S0295 西拡幅部)	凸基有茎式
41	106	34	スクレイパー		6.7	4.2	0.65	22.6	サヌカイト	第1面	I-b区	S0298	
41	107	34	石鎌	縄文時代～弥生時代初	3.6	1.8	0.35	1.6	サヌカイト		I-c区	3-3層	無茎
41	108	34	スクレイパー		6.8	3.8	1	22.3	サヌカイト	第1面	I-c区	遺物集中部(竪穴建物4覆土S0678)	風化著しい
41	109	35	扁平片刃石斧	弥生時代前期末～中期初	4.5	2.55	1.1	22	層灰岩	第1面	I-b区 拡張部	S0446	
41	110	34	打製石剣	弥生時代中期	10	3.3	1.3	59	サヌカイト		I-c区	3-3、3-4層	上半欠損
41	111	34	打製石剣	弥生時代中期	11	4.5	2.1	106.8	サヌカイト		I-c区	3-3層	未製品
41	112	34	ナイフ形石器	旧石器時代	4.5	1.3	0.7	3	サヌカイト	第1面	I-c区	遺物集中部(S0721付近包含層)	
42	113	35	石庖丁	弥生時代中期	13.7	3.9	0.7	57.5	緑泥片岩		I-c区	遺物集中部(竪穴建物4S0678)付近	直線刃半月形
42	114	36	砥石		7.8	3.9	3.6	123.4	砂岩		I-c区	3-3層	
42	115	36	砥石		8.7	4.4	4	163.2	砂岩	第1面	I-b区 拡張部	土器集中部(竪穴建物2・3間包含層)	
43	116	36	砥石		9.2	4.3	1.7	75.9	砂岩か	第1面	I-c区	竪穴建物4内S0777	凹溝状の擦痕あり
43	117	36	くぼみ石		11.7	9.4	4.1	690.5			I-b区	4層	裏面磨いでいる
43	118	36	ハンマーストーン		7.1	6.2	5.8	331.3	サヌカイト		I-c区	3-3層	摩耗
43	119	36	すり石		15.1	8	5.9	1048.3	安山岩	第1面	I-b区 拡張部	S0455	
68	191	35	石鎌	縄文時代	2.8	1.7	0.4	1.7	サヌカイト		II-a区	第1面精査	
68	192	35	翼状(横長)剥片	旧石器時代	5.5	2.1	1.1	11.4	サヌカイト		II-a区	3層	
68	193	35	ナイフ形石器	旧石器時代	4.4	2.3	0.7	6.4	サヌカイト		II-a区	3層	
68	194	37	楔形石器		5.4	2.7	1.1	21.1	サヌカイト	第1面	II-b区	6層以下流路	
68	195	35	不明		3.5	1.3	0.4	1.7	サヌカイト		II-b区	南側溝	
68	196	35	石鎌	弥生時代中期	2.9	2.4	0.4	2.3	サヌカイト		II-d区	S0959 西壁内	
68	197	35	ドリル		3	2.7	0.45	3.8	サヌカイト	第1面	II-d区	S0926	
68	198	35	ドリル		4.5	1.5	0.25	2.5	サヌカイト	第1面	II-d区	S0959	
68	199	37	楔形石器		3.2	3.1	0.95	8.9	サヌカイト	第1面	II-d区	S0959 西壁内	
	213	37	楔形石器		6.0	5.2	1.8	53.9	サヌカイト	第1面	I-c区	S0611	
	214	37	楔形石器		3.8	2.4	0.55	10.2	サヌカイト		I-c区	3-2層 (機械掘削)	
	215	37	楔形石器		7.0	3.8	1.3	39.4	サヌカイト		I-c区	3-2・3層	
	216	37	楔形石器		7.5	5.0	2.3	65.2	サヌカイト		I-c区	3-2・3層	
	217	37	楔形石器		1.8	5.0	1.1	9.7	サヌカイト		II-d区	第1面精査	
	218	37	楔形石器		2.6	1.8	0.7	2.8	サヌカイト		II-a区	3層	
	219	37	楔形石器		3.0	2.5	1.2	10.8	サヌカイト		I-c区	3-3層	
	220	37	楔形石器		3.3	3.8	0.5	11.9	サヌカイト		II-a区	3層	
	221	37	楔形石器		2.2	3.8	0.6	5.0	サヌカイト	第1面	II-d区	S0959 西壁内	
	222	37	楔形石器		4.1	6.0	1.4	30.9	サヌカイト	第1面	II-d区	S0959 西壁内	
	223	37	楔形石器		3.8	6.9	1.1	28.3	サヌカイト	第1面	II-d区	S0959 西壁内	
	224	37	楔形石器		8.9	10.0	3.5	325.4	サヌカイト		I-c区	3-3層	